

經營戰略計画



公益財団法人

名古屋食肉公社

目 次

1 はじめに

(1)経営戦略計画策定の趣旨	1
(2)計画期間	1

2 経営理念	1
--------------	---

3 事業概要

(1)沿革	2
(2)事業内容	2
(3)経営状況	2

4 経営戦略

(1)現状の課題	3
(2)対応方針	4
(3)取り組み内容と成果目標	5
①公共サービスの充実	5
②財務内容の改善・向上	6
③効率性の発揮	7
④人材力・現場力の強化	8

1 はじめに

(1)経営戦略計画策定の趣旨

南部市場は、名古屋市、名古屋食肉市場株式会社、公益財団法人名古屋食肉公社の3社で責任を分担し、連携協力して、安全・安心な食肉の安定供給に努めています。

その中で当公社は、と畜解体・冷蔵保管業務を担い、高品質で安全・安心な食肉を供給するとともに、食肉の安全衛生向上に係る普及啓発活動を行っています。

少子高齢化の進展、人口減少社会を迎え、昨今の食肉需給をめぐる環境は、国内市場の拡大が見込めない中で、牛肉輸出量の伸長など今後の動向にもよりますが、と畜頭数の大幅な増加は考えにくい状況です。

一方、当公社を取り巻く経営環境に目を転じますと、豚熱などの家畜伝染病や南海トラフ地震などの災害、老朽化した設備機器の故障など、事業継続が危ぶまれる様々なリスクを抱えています。

こうした中で自立的・持続的な団体として活動していくとともに、職員が安心して、安全に、やりがいを持って働ける団体になるべく、第5次の経営戦略計画を策定し、中長期的視点に立った経営の舵取りを行ってまいります。

また、安全・安心な食肉を市民の皆様にお届けすることを経営理念に掲げる当公社は、この経営戦略計画に基づく企業活動を通じて、「持続可能な開発目標－SDGs－」達成に向けて取り組みを進めてまいります。

(2)計画期間

令和7～9年度（3か年）

2 経営理念

「私たちは、安全・安心な食肉を市民の皆様にお届けします」



3 事業概要

(1)沿革

昭和 33 年に名古屋市が開設した名古屋市中心卸売市場高畑市場では、卸売市場にと畜場が併設されており、牛及び豚のと畜解体は、名古屋食肉事業協同組合が引き受け、調理人が個々にその業務を請け負っていました。しかしながら、調理人の身分保障や社会保障が不安定だったため、平成 6 年 5 月に基本財産 1 億 20 万円のうち、名古屋市が 4,500 万円を出捐して、食肉関連団体とともに、財団法人名古屋食肉公社が設立されました。

その後、平成 19 年 2 月に名古屋市中心卸売市場が、高畑市場から現在の南部市場へ移転、平成 25 年 3 月には、公益財団法人へ移行し、現在に至ります。

(2)事業内容

公益財団法人である当公社は、公共性の高い公益目的事業と、それを下支える収益事業を行っています。

①公益目的事業

ア と畜解体・冷蔵保管事業

南部と畜場に搬入された牛及び豚のと畜解体処理業務及び枝肉の冷蔵保管業務

イ 普及啓発事業

食肉の安全衛生向上に係る知識及び理解を深める普及啓発活動

②収益事業

ア 副産物処理事業

南部と畜場で処理加工した内臓、皮、頭、脂肪等の副産物の卸売業務

イ 搬入枝肉搬送事業

南部市場に搬入された枝肉の冷蔵保管業務及び部分肉加工施設への搬送業務

(3)経営状況

令和元年度に発生した豚熱の影響により、と畜頭数が激減し、事業収益が対前年度比較で 1 億円超の減収となりましたが、その後、と畜頭数が徐々に回復してくるに伴い、財務内容も持ち直し、令和 2 年度以降は、単年度黒字を計上し続けております。また、令和 5 年度末時点の自己資本比率が 70.3%、流動比率が 180%と、財務の健全性が保たれ、純資産額も令和元年度末の約 2 倍の 3.4 億円と、安定した経営状況になっています。

4 経営戦略

(1)現状の課題

① 公共サービスの提供

と畜頭数は、当公社の公益目的事業の中核であると畜解体事業のバロメーターになりますが、豚熱等の家畜伝染病の影響を大きく受けることはもとより、平常時においても自助努力だけでは、と畜頭数のコントロールができないというジレンマを抱えています。そうした中にあっても、持続的に公共サービスを提供し、畜産農家から消費者に至るまで幅広い信用を築き、信頼に応えていくことが求められています。

【と畜頭数の推移】

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
牛	8,400	7,362	7,076	7,048	7,735	7,782
豚・子牛	217,498	172,148	177,460	194,763	199,780	199,854

②財務基盤の強化

市場間競争の中で、南部市場への集荷を促進するため、と畜解体や、枝肉の低温保管に要するコストに比べて、料金を低廉な価格に設定しています。

上記の公益目的事業の収支赤字を補填するため、適正な補助金確保と収益事業の収益力向上を図り、経営リスクへの備えとしての財源を確保し、安定的な経営を持続していく必要があります。

※南部市場・と畜場のリスク

- ア 南部市場は平成 19 年 2 月に開場して以来 18 年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、と畜基幹設備や冷蔵庫など、設備機器の故障リスクが高まっています。
- イ 南部市場が立地する地盤の脆弱性から、南海トラフ地震等の災害が発生した場合に復旧が長期化することが懸念されるなど、当公社が操業を継続していく上でのリスクを抱えています。
- ウ 南部市場に出荷する畜産農家において、豚熱、BSE、口蹄疫等の家畜伝染病がひとたび発生すると、と畜頭数が激減し、当公社の経営に深刻な影響を及ぼすリスクがあります。

③労働生産性の向上

当公社は、総勢 120 名余の従業員が、と畜解体業務、副産物処理業務、枝肉の搬送搬出入業務に従事する、労働集約型の団体です。令和 5 年度における日々のと畜頭数が、牛は最少 0 頭、最大 91 頭、豚が最少 505 頭、最大 1000 頭と振幅が大きく、業務量が平準化しないという前提条件のもとで、労働力を効率的に配分し、いかに労働生産性を高めるかが課題となっています。

④職員の高齢化、モチベーションアップ、労働安全向上への対応

計画期間中に 5 名の職員が退職予定であり、職員の高齢化と技術の継承が課題になっています。このため、将来の担い手となる人材の採用が重要ですが、初任給が相対的に低いこともあり、採用がままならないのが実情です。

また、当公社が掲げる理念の実現には、職員が安全・安心かつ高いモチベーションを持って働くことができる職場風土づくりが欠かせません。

さらには、当公社が行う業務では、多種多様な機械設備、刃物類や重量のある枝肉を扱うなど、危険と隣り合わせの労働環境であり、労災事故の発生リスクが高くなっています。

【労災発生件数(休業 4 日以上)】

H30	R1	R2	R3	R4	R5	平均
0	1	2	5	2	2	2.0



(2)対応方針 ～ 4つの戦略機軸 ～

方針①公共サービスの充実

牛・豚の集荷促進、と畜解体・冷蔵設備の安定稼働に向けた南部市場関係事業者との連携協力及び当公社独自の取組みにより、持続可能な公共サービスを提供していきます。

方針②財務内容の改善・向上

経営を取り巻く様々なリスクに対応できるよう、剰余金の積み増しなど、強靱な財務基盤をつくれます。

方針③効率性の発揮

効率的かつ的確な業務オペレーションにより、労働生産性を高めます。

方針④人材力・現場力の強化

新規職員採用を計画的に進めるとともに、職員のモチベーション向上に努めます。また、安全第一をモットーに、労災事故ゼロを目指します。

(3)取組み内容と成果目標

①公共サービスの充実

「私たちは安全安心な食肉を市民の皆様にお届けします」という理念を掲げ、と畜解体・冷蔵保管事業や普及啓発事業を推進し、生産者から消費者に至るまでの食肉流通の一翼を担う事業者としての社会的責任と公共的使命を果たします。



〈取組み内容〉

- ・低廉なと畜解体料・冷蔵保管料により、南部市場の集荷促進に寄与し、公共サービスの持続的な提供に努めます。
- ・確かな技術と丁寧な作業に裏打ちされたと畜解体業務を通して、高品質な枝肉の製造加工を行います。
- ・ISO22000 の認証継続および食品製造工程管理(HACCP)の定着により衛生管理を徹底し、安全安心な食肉を提供します。
- ・生産者が肥育した牛・豚の命をいただき、枝肉・部分肉・精肉へと加工され、食卓に届くまでの一連の過程について、“食育”の観点に立って情報発信や普及啓発に取り組めます。

成果目標

事 項	令和 5 年度実績		令和 9 年度目標	
と畜頭数に占める作業ミスによる 事故畜弁済件数の割合	牛	0.35%	毎年度 0.35%未満	
	豚	0.15%	毎年度 0.15%未満	
内臓・副産物の金属異物混入件数	0 件		毎年度 0 件	
市場見学会の開催件数及び参加人数	開催 件数	18 件	開催 件数	毎年度 20 件以上
	参加 人数	242 人	参加 人数	毎年度 240 人以上

② 財務内容の改善・向上

様々な操業リスク(設備故障、労災事故、自然災害、家畜伝染病等)を抱える中で、万一操業停止を強いられる状況になっても、雇用を維持し、安定的な経営を維持できるよう、各種事業の収支改善に取り組み、財務基盤を強化します。



〈取り組み内容〉

- ・市場・顧客ニーズを的確に把握し、満足度の高いサービスの提供と適正な価格設定を行うことにより、収益事業の収益向上につなげます。
- ・業務の棚卸しを行い、経費節減に努めるとともに、外部関係者や取引業者との取り決めや契約内容を精査し、経費圧縮に向けた調整に努めます。
- ・公益目的事業の充実を図りつつ、剰余金の積み増しにも留意し、操業停止リスクへの対応に備えます。

成果目標

事 項	令和 5 年度実績	令和 9 年度目標
収益事業(副産物処理事業・搬入 枝肉搬送事業)の売上金額	258,370 千円	269,000 千円
事業経費 (副産物購入費を除く経常費用)	980,006 千円	1,000,000 千円未満

※収益事業の売上金額は、収益事業の事業収益から副産物購入費を差し引いた金額

③ 効率性の発揮

と畜頭数の平準化は困難という南部市場の実情を前提として、日々の業務量の変動にもフレキシブルに対応できる組織体制の充実を図ります。また、労働生産性を高める取り組みを通して、効率性の向上に努めます。



〈取り組み内容〉

- ・5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)活動に不断に取り組み、作業効率の向上、事故リスクの低減につなげます。
- ・職員一人一人が、所属課において、より多くの業務を担えるようにするとともに、他課の支援を行う業務支援課の職員を増強するなど、多能工化を推進します。
- ・機械化による省人化に取り組み、業務オペレーションの最適化を進めます。

成果目標

事 項	令和 5 年度実績	令和 9 年度目標
業務支援課職員数	12 人	15 人

④人材力・現場力の強化

現場(と畜場・冷蔵庫)における技術やノウハウを備えた人材が不可欠であることから、専門スキルを持った人材、オペレーション能力の高い人材など、多様な人材を育成していきます。また、まじめに頑張る職員が報われる職場風土づくり、規律維持への不断の取り組み、安全な労働環境の確保を通して、働きがいのある団体にしていきます。



〈取り組み内容〉

- ・職員の高齢化に対応するため、初任給の見直し等により、新規職員の計画的採用を進めるとともに、熟練者等による OJT を基本に、技術の伝承やノウハウの共有化を図ります。
- ・財務状況を勘案しながら職員のモチベーション向上に資する方策を検討するとともに、コンプライアンス研修の実施等により、職場規律の維持向上に努めます。
- ・保護具着用の徹底とともに、労働安全衛生講習会の開催により、労働安全への意識啓発に努めます。

成果目標

事 項	令和 5 年度実績		令和 9 年度目標	
各種研修・講習会の開催回数 及び延べ参加職員数	開催回数	2 回	開催回数	毎年度 3 回以上
	延べ参加 職員数	20 人	延べ参加 職員数	毎年度 80 人以上